

土木工学・建築学委員会  
インフラ高度化分科会  
(第25期・第10回)  
議事要旨

日時：令和4年10月6日(木) 10:00～12:00

開催方法：オンライン Zoom

出席者：

小林潔司，天野玲子，小野潔，小池俊雄，小峯秀雄，那須清吾，高橋良和，竹脇出，多々納裕一，西嶋一欽，花木啓祐，安福規之

配布資料

資料1：前回(第9回)議事要旨(案)

資料2：シンポジウム等の概要について(事後報告)

資料3：意思の表出(見解)の申出書案

資料4：見解要旨案

資料5：インフラ高度化のための見解案の参考資料

議題

1) 前回議事要旨の確認

小野委員より資料1に基づき、前回議事要旨の説明があり、一部修正のうえ、承認された。

2) 令和4年8月10日開催学術シンポジウムの事後報告

高橋委員より資料2に基づき、学術シンポジウム(越境しあうインフラガバナンス—性能とサービスをつなぐ—)について報告があった。参加人数は181名(うち対面参加者は10名)であったことが報告された。シンポジウムの内容は、委員会の審議活動(意思の表出)に盛り込むことが報告された。報告の内容を確認し、承認された。

3) インフラ高度化分科会の「意思の表出」について

小林委員長から資料3に基づき、次回の土木工学・建築学委員会にてインフラ高度化分科会から「見解」として「意思の表出」を行うことを申し出る予定であることが示された。意思の表出の申出書の作成に関して、以下の通り準備を進めることとなった。

・現時点での表題(仮)は、越境しあうインフラガバナンスの実現に向けて、とする。

・以下の議論および検討を踏まえて、10月末をめどに骨子案を作成する。

(主な議論・検討内容)

・資料4および5の内容も踏まえ、以下の通り議論および検討された。

・資料5中3.2節の図において、「ハザード」という用語について議論を行った。災害時と平常時の両方においてインフラに作用することから、別の用語が適切ではないかという指摘に対して、「入力」「外力」「作用(アクション)」「インパクト」などの代替案が示された。また、「ハザード」が指す内容として、自然災害に限定せずに、それともサイバー攻撃なども含めてはどうかという意見があった。

・平常時から災害時へとシームレスにつながるということが重要である、analysis だけではなく synthesis も重要なキーワードであるという意見が出され、「意思の表出」に盛り込むことが提案された。

・ガバナンスについての記述が少ないので、追記することが確認された。ガバナンスに関する追記に際して、ハードのガバナンスとソフトのガバナンスの両方について追記する。災害時のガバナンスだけではなく、平常時を含めたガバナンスについての記述が必要である。

・ガバナンスという用語は、他分野でも用いられている用語であるので、本「意思の表出」においてどのような意味で用いているのかを説明する必要があるとの指摘があった。また、土木・建築分野において、これまでにガバナンスという用語がどのように用いられてきたかという経緯を踏まえる必要があるとの指摘もあった。well-being などの用語についても同様に専門外・分野外の人々にわかるように説明する必要があるとの指摘があった。

・本「意思の表出」作成に際して、土木工学・建築学委員会が発出してきた過去の提言等をサーベイする必要があるとの意見が出された。

(文責：西嶋)